

NETIS登録番号		技術名称		ループアーチ工法		
QS-130007-A		副題		ループ継手とプレキャスト部材による高土被り対応大断面アーチカルバート		
分類1	トンネル工	アーチカルバート工		キーワード:コスト削減・生産性の向上、		
分類2	共通工	ボックスカルバート工	躯体工	公共工事の品質確保・向上		
開発目標		省人化、経済性の向上、その他(工期短縮)				
技術の位置付け	<input type="checkbox"/> 推奨技術 <input type="checkbox"/> 準推奨技術 <input type="checkbox"/> 活用促進技術 <input type="checkbox"/> 設計比較対象技術 <input type="checkbox"/> 少実績優良技術					
特許	<input type="checkbox"/> 有り (特許番号: ) <input checked="" type="checkbox"/> なし					
技術賞, 審査証明等	<input type="checkbox"/> ものづくり日本大賞 <input type="checkbox"/> 国土技術開発賞 <input type="checkbox"/> 学会賞 <input type="checkbox"/> 建設技術審査証明					
問合せ先	会社名	株式会社 ヤマウ			TEL	092-872-3352
	住所	福岡県福岡市早良区東入部5丁目15-7			E-MAIL	k-tanaka2i@yamau.co.jp
	担当者	田中圭司				
実績件数	国土交通省		その他の公共機関		民間等	
H26.8.31現在	1件		0件		0件	

技術概要: (300字以内)

大断面アーチカルバートを構築する工法で、2分割されたプレキャスト部材と現場打ちコンクリートを併用し、工期短縮、省人化を可能としました。従来は現場打ちボックスカルバート工法によっていました。  
道路のアンダーパス、水路用ボックスカルバート、下水道ボックスカルバートに適用できます。

「どこに新規性があるのか」

- ①頂点接合部のループ継手構造による、2分割されたアーチカルバートのプレキャスト側壁部材と現場打ちコンクリートを併用しました。
- ②2分割されたプレキャスト側壁部材は自立可能です。

「期待される効果」

- ①アーチカルバートとすることにより、高土被り条件下で現場打ちボックスカルバートと比較して部材厚を薄くでき、経済性の向上が図れます。
- ②2分割されたプレキャスト部材と現場打ちコンクリートを併用することにより現場打ちコンクリートが減少するため、工期短縮・省人化が可能となるとともに、工場製品であるため品質が安定します。
- ③頂点接合部にループ継手を採用したことによりPC緊張工等の作業がなく、施工性の向上が図れます。
- ④左右2分割のプレキャスト側壁部材が自立することによりクレーン1台での施工が可能となり、施工性の向上が図れます。

「適用条件」

- ①自然条件  
強風時(平均風速10m/s以上)には部材据付クレーン作業を中断すること。
- ②現場条件  
大型クレーン(50~100t級)、大型トレーラー(総重量20t程度)が進入可能な場所。製品の荷降ろし仮置きスペース(18m×18m程度)が必要となる。
- ③技術提供可能地域  
全国

「適用可能な範囲」標準適用範囲(下記範囲外の場合、別途検討を行うことにより対応可能)

- ①内空幅 4.0m~8.0m
- ②内空高 5.8m~8.5m
- ③土被り 0.5m~15.0m

「特に効果の高い適用範囲」

- ①工期短縮を図りたい現場。
- ②土被り3m以上の高土被り箇所。

「適用できない範囲」

プレキャスト部材が搬入・据付できない場合(製品長、重量、施工機械の制限など)。

「写真・図等」



自立するプレキャスト側壁部材



頂点接合部ループ継手